Factors promoting sense of coherence among university students in urban areas of Japan : individual-level social capital, self-efficacy, and mental health

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-01-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049695

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

平成　29 年 8 月 18 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　1329022031

氏　　名　間戸　美恵

論文審査員

主　査（教授）　城戸　照彦　印

副　査（教授）　塚崎　恵子　印

副　査（教授）　北岡　和代　印

論文題名　Factors promoting sense of coherence among university students in urban areas of Japan: individual-level social capital, self-efficacy, and mental health

論文審査結果

【論文内容の要旨】

大学生の時期からの生活習慣の改善に向けた働きかけは，中年期以降の生活習慣病の発症を予防するために重要である。健康な生活習慣を推進するための 1 つの方略として，個人の首尾一貫感覚（SOC）を高めることが考えられる。本研究は，大学生において SOC を高める汎抵抗資源を明らかにすることを目的として，SOC とソーシャル･キャピタル（SC），自己効力感，及びメンタルヘルスとの関係を検討した。対象は，二大都市圏（関東，近畿地区）の大学のうち，自由意思により研究協力の同意を得た 8 校の 9 学部の学生 614 人で，郵送による無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は属性（年齢，性別，専攻，家族構成，現在地の居住年数，同居状況，出身地域），個人レベルの認知的及び構造的 SC，自己効力感，メンタルヘルス，SOC である。SOC の関連要因を明らかにするため，年齢，性別，単変量解析で関連が認められた属性，認知的及び構造的 SC，メンタルヘルス，自己効力感を独立変数とし，SOC を従属変数としてステップワイズ法による重回帰分析を行った結果，SOC と認知的 SC，構造的 SC，自己効力感，メンタルヘルスとの関連性が明らかになった。さらに，二元配置分散分析の結果，出身地域と現在の居住地域がともに二大都市圏の学生では，認知的 SC と構造的 SC がともに高いことは，SOC に抑制的に働く可能性が示された。以上より，健康な生活習慣の推進を目指して，大学生の SOC を高めるためには，ソーシャル･キャピタル，自己効力感，メンタルヘルス等の心理社会的要因を考慮して，全学生において環境を整えていくことや各個人を支援していくことが必要であると考える。

【審査結果の要旨】

本研究は，大学生の健康な生活習慣の推進における心理社会的要因の重要性を示唆する結果を示しており，オリジナリティが高く，国内外の様々な健康推進対策において活用が期待される。公開審査では，概念の理解と尺度の妥当性，分析結果の解釈，研究成果の貢献と研究の発展に関して質疑され，適切な応答がなされた。

以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。